

運 輸， 通 信

太平洋に突出した房総半島を行政区域とする本県の交通機関は、ローカルな性質を持ち、国鉄幹線では常盤線が県北部を貫くに過ぎない。

主な県内鉄道は千葉を起点として房総半島を一周する房総東線，同西線と，北総地方を横断して銚子に達する総武本線，佐松線がある。また東京方面には総武本線の電車区間がある。

国鉄，私鉄の運輸状況をみると，両者とも年々輸送人員は増加している。特に郊外を走る私鉄は，沿線に新しい住宅地帯が作られる関係で，利用者の増加は益々激しくなる。

また，国鉄も最新ディーゼルカーを配して輸送の合理化に努力しているが，電車区間以外は単線のため，不便は免れない。

次に交通機関としての自動車は目ざましい発展をみせ，昭和26年に 8 869台あつた本県自動車台数は6ヶ年間に4.2倍の36 777台に増加した。鉄道の補助的存在であつたバスが近年著しく路線拡張し，今日では，県民の足として大きな役割を果している。その輸送人員は乗用車と合せてみると，昭和31年には1億人となつている。

また，県内貨物の輸送は有利な自動車に頼り，今や近距離貨物輸送は鉄道にとつて替つた。

電話の需要は年々増加し，昭和26年には，23 057であつた加入者が昭和32年には38 645となり，また，設備も逐年改善され，千葉，市川，船橋，松戸，野田，柏，木更津局が自動式となつたが，引き続いて13局が第二次五ヶ年計画によつて自動化される予定である。